

令和4年度 綾瀬市立綾北小学校 学校関係者評価報告書

綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	秩序ある明るい社会を築くために、心身ともに健康で、創造性と実践力のあるたくましい子どもを育成する。 ○まごころと思いやりのある子 ○健康でねばり強い意志のある子 ○生きてはたらく学力を身につけた子	
学校経営方針 (グランドデザイン)		
今年度の重点目標	考える力を育てる ○ねばり強く取り組む力 ○よく聞いて考え、表現し、伝え合う力 ○かかわる力、つなげる力	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「生きてはたらく学力を身につけた子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	7割ほどの児童が進んで学習に取り組んでいると答えています。児童の学力を保障し、学習意欲を高めるために、基礎・基本の定着を図り、分かる授業をめざします。また、指導方法の工夫や改善を行い、考える力を育てる授業づくりにとも引き続き取り組みます。「意欲的に取り組めていない」と答える3割の児童も意欲的に学べるよう、個に応じた支援を工夫していきます。
2 教育課程	児童は、学校行事や特別活動に積極的に参加している。	約9割の児童が「がんばった」と答えています。運動会や縄跳び大会などの体育的な行事だけでなく、昨年開催できなかったもみじ祭が開催できたことは児童にとって満足感を得ることができた要因の一つと考えています。しかし、「取り組めていない」「わからない」と回答された保護者が昨年度より増えています。教師側の言葉がけや働きかけにより児童の取り組み方も変わり、保護者にも伝わりやすくなると思います。「なりたい自分像」をより明確にもたせられるように内容や指導の在り方を考えていきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「まごころと思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている。	8割以上の児童が「あいさつができ、友だちと仲良くできた」と答えています。この結果は、前年比と概ね変わりませんが、保護者の「そう思う・ややそう思う」は約半数となりました。これは、昨年よりも児童があいさつを心掛けられなかったが、友だちと仲良く過ごせなかったようにみえた結果と考えます。今後は、教職員自身が思いやりをもち、児童に寄り添い、あいさつの大切さや友だちと仲良くなる仕掛けづくりを、組織的に実践していく必要があると感じています。
4 児童・生徒指導	児童は友人や先生との学校生活に満足している。	学校は、どの状況においても、児童にとって安心して楽しく過ごせる場所でありたいと考えています。そのために、教職員が工夫を重ねて学級・学年間を中心によりよい人間関係づくりに取り組んできました。今年度、約8割の児童は満足しているという結果でした。よりよい学級集団づくりを基本として、学年・学校全体でさらにきめ細かい支援・相談体制を作り、多くの児童が満足できるようにしていきます。
5 児童・生徒指導	児童は友人や先生との学校生活に満足している。	約5割の保護者が「努めている」と答えました。また、「わからない」と答えていた結果が、前年より良い傾向に変わりました。「あまり思わない・そう思わない」と感じた保護者の方は、是非、そのままにせず教育相談コーディネーターの3名か、スクールカウンセラーへ早急にご相談いただきたいと思います。学校では、今後も学級のよりよい人間関係づくりに基本に、児童が相談しやすい雰囲気作りを行い、いじめの未然防止・早期発見に一層努めていきます。道徳教育や人権教育など、心の教育の充実をさらに図ります。
6 保健管理	学校は「健康でねばり強い意志のある子」を育てる指導に積極的に取り組んでいる。	今年度も引き続き、毎朝の健康観察カードを基に、家庭と連携しながら個別に健康状態を丁寧確認してきました。感染予防をはじめとする健康で安全な生活について、日々の生活や学習活動の実態に応じてその都度共通理解し、全校児童に対して指導を積み重ねてきました。これにより、児童の意識を継続的に高め、手洗いやマスク着用、距離をとる等の感染予防対策や事故やけがのない安全な生活を送ることを意識化、習慣化することができています。今後も引き続き対策を行い、児童の意識づけに努めていきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	「安全」は学校にとって最重要課題の一つであり、施設の点検には細心の注意を払う必要があります。施設の老朽化に伴い、細かな不具合が様々に出ているのが現状です。改善の優先度の高い箇所についてはこれまで通り確実に直してもらえよう、要望していきます。登下校の安全については、今後も地域の登下校ボランティア「見守り隊」の方や、PTA校外指導委員の方に協力していただき、事故、けがのない安全・安心な学校をめざしていきます。
8 支援教育	学校は児童に応じた支援の工夫をしている。	引き続き全職員で情報を共有し、児童の実態を把握して、児童理解に努めていきます。そして、一人ひとりのニーズに合った支援体制を充実させ、支援や相談を積極的に行っていきます。また、保護者の要望に応じて、専門機関の相談員などとも連携を図っていきます。

9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	学校教育目標を具現化するために、学校グランドデザインに掲げためざす児童像の実現に向けて重点目標を立て、育てたい児童の資質・能力を明確にして、各グループが担当の所掌の「計画・実践・評価・改善」を行い、運営組織の充実を図りました。今後もよりよい学校運営のために、担当総括教諭が中心となり、各グループが連携しながら、活発で効率的な運営が機能するよう努めていきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	今年度、校内研究の発表をした成果と課題を生かしながら、必要とされる資質・能力の育成を目指し、校内研究に取り組んでいきます。来年度は、教員が必要だと感じている研修内容を計画的に実施していけるようにしていきます。また、経験の少ない教員が自信をもって教科・生活指導にあたれるよう、相談しやすい雰囲気や教員が互いの授業を見合い、高め合えるような環境づくりに努めていきます。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	昨年度に比べ、「そう思う・ややそう思う」と回答した保護者が約3割減少しました。この結果を真摯に受け止め、学級経営の検証や分析を行い、今後も児童の実態把握にさらに努めていく必要があると捉えています。教職員による情報交換や児童のスクールアンケートなどで、児童の実態や課題を細かく把握し、担任や学年、教育相談コーディネーターやスクールカウンセラー等チームで対応し、支援・指導を行い共通理解を図ります。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	半数の保護者が「あまり思わない・思わない・分からない」と回答しています。この結果から、学校・学年だよりでは十分に児童の学習や活動の様子を伝えられていないことが分かります。文書の配付だけでなく学校ホームページを活用して情報をより確実に伝えながら、家庭訪問や個別面談、学校行事等で直接保護者に児童の様子を伝える場面も大切にしていきます。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】 ・学校からの情報発信の方法について苦慮しているのだが、「これまでと同じ方法では、保護者に伝わらない」という認識を持たないと、改善にはつながらない。とはいえ、コストや手間のかかる奇抜なアイデアを求めているわけではなく、例えば“学校便りや保健便りなどを色紙に印刷する”のようなささいな変化でも、保護者にとっては重要なものとして受け取ってもらえるかも知れない。 ・不登校児童はどのくらいいるのか、とても心配している。また、登校の見守りをしていて、家を出る時間が遅い子どもが年々増加している印象を受けている。朝ごはんをしっかりと食べているのか、家庭ではどのように過ごしているのかなど、気がかりなことが多い。 ・総合的な学習の時間や生活科などで、校外学習や講師を招いた学習などを行っているようだが、ぜひ、各自治会や老人会にも声をかけてほしい。学校が必要としている人材が、地域にはいるはずだと思う。		